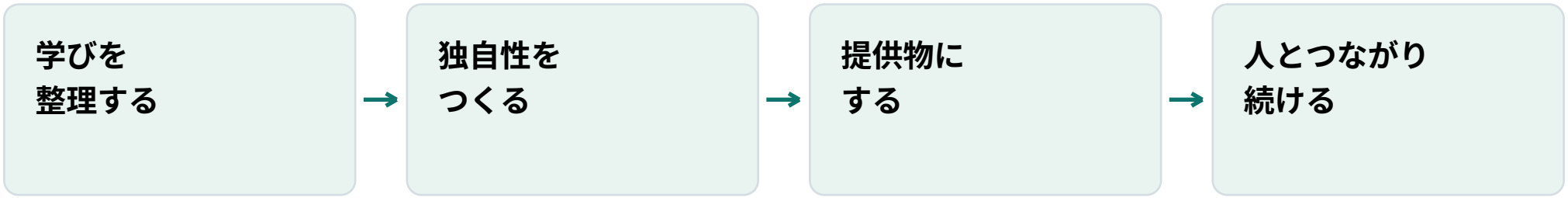
天間AI実践特別講座

講義内容の図解資料

2026年10月28日

学んだことを整理し、人に届く形にして、発信や仕事につなげる。
録画講義で示された実演と全体の仕組みを、図で振り返ります。



AIを使って 自分が提供できる価値を形にする

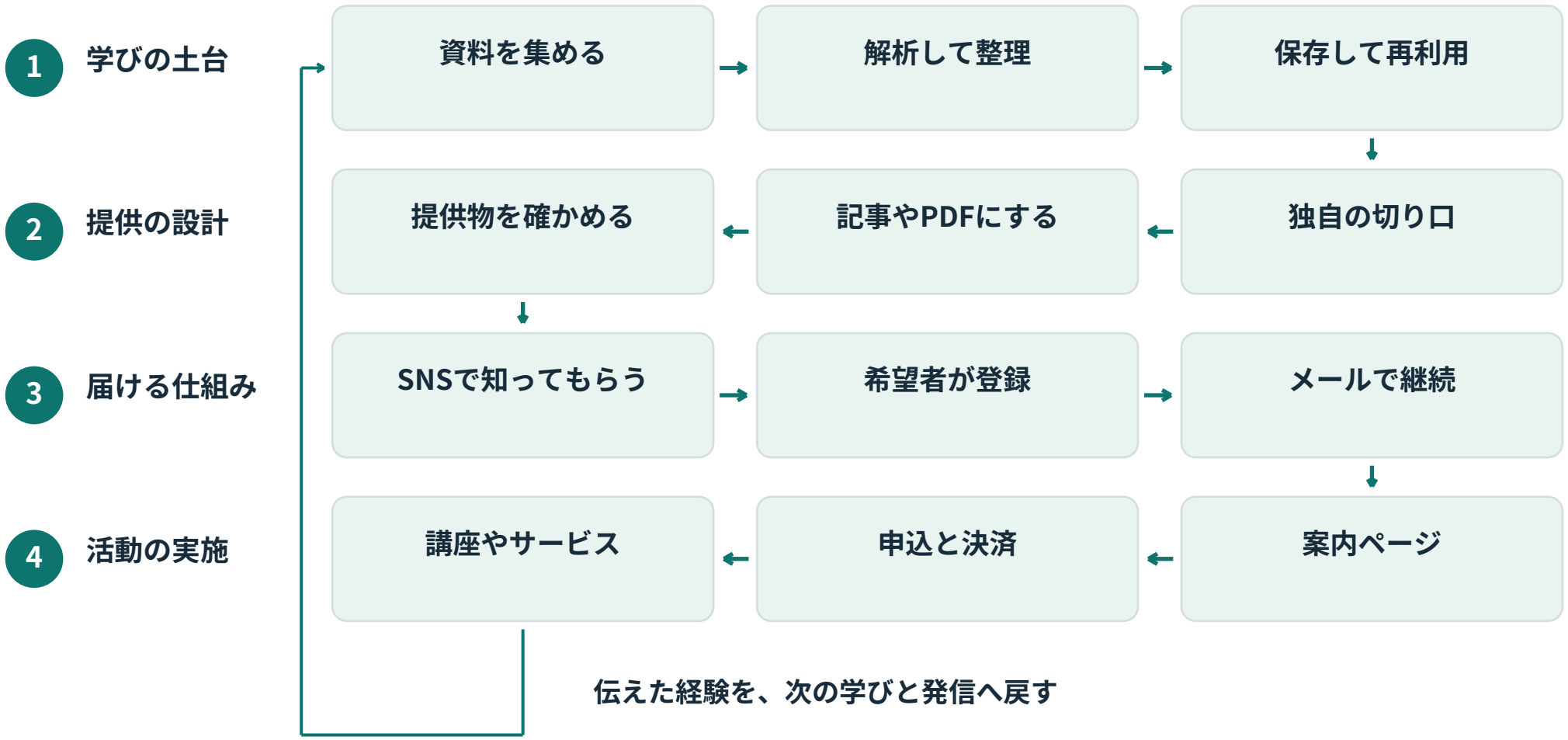
手順を知るなら 03 - 05・09 - 12ページ
自分の活動に当てはめるなら 06 - 08・13 - 17ページ

録画後の復習資料です。講義前の配布教材とは別資料です。

録画参照 00:03:04 - 00:07:15 / 01:25:53 - 01:26:50

講義の全体マップ

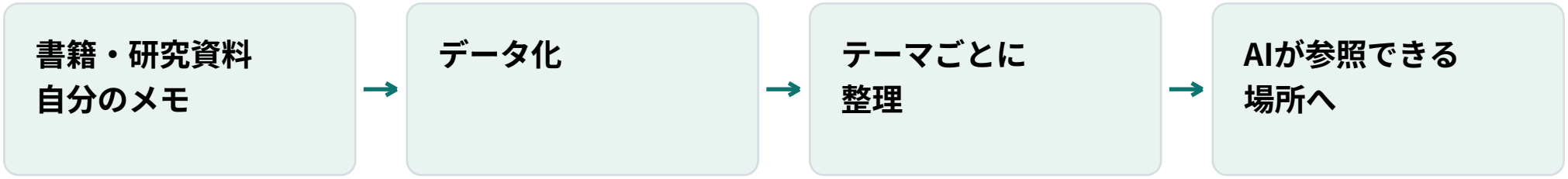
学びを深める流れと、人に届ける流れをつなげる。



録画参照 00:34:36 - 00:37:46 / 01:16:18 - 01:17:40 / 01:29:20 - 01:31:50

資料を使える形で持つ

持っているだけの情報を、参照し直せる材料に変える。



PDFや元ファイル

原資料を残す。
確かめるときの出発点。

Notionなど

解析結果や目次を整理。
後からたどれる形にする。

Google Driveなど

資料を保管。
必要なときに参照する。

実演 書籍PDFをChatGPTへ渡し、Notionに専用ページを作って整理するよう依頼。

原本を送る前に 講義で紹介された電子化方法は、本を分解して返却しない方式。大切な原本を送るかは別に判断します。

録画参照 00:13:28 - 00:18:05 / 00:22:40 - 00:24:01 / 00:32:23 - 00:34:25

全体要約と詳細解析を分ける

「全部読んだはず」にせず、ページ単位で進み方を確かめる。

ざっくり把握

資料全体 → 概要をつかむ → 全体像の入口

詳しく解析

1ページずつ → 原文と読み解きを分ける → 要確認箇所を残す → 目次でたどる

講義の指示を短く整理した例

「添付資料を1ページずつ詳しく解析し、Notionに専用ページを作って保存してください。一度でできなければ、作業を分割して進めてください。」

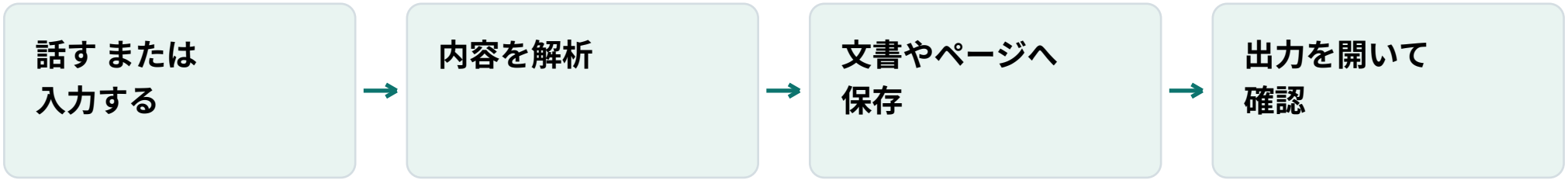
古い字体や図表には誤認識もあるため、原文と読み解きを別に残します。

確認すること どこまで終わったか ／ どこが未確認か ／ 原資料へ戻れるか

録画参照 00:18:34 - 00:21:26 / 00:24:02 - 00:24:45

AIへの依頼を成果物までつなぐ

目的・対象・保存先を伝え、出てきた結果を確かめる。



1 何を

添付資料
調べたい原典
整理済みの情報

2 どうする

1ページずつ解析
重要点をまとめる
図を増やす

3 何にする

Notionのページ
Wordファイル
PDF

実演 音声での依頼、Deep Researchによる原典調査、Wordへの書き出しを紹介。

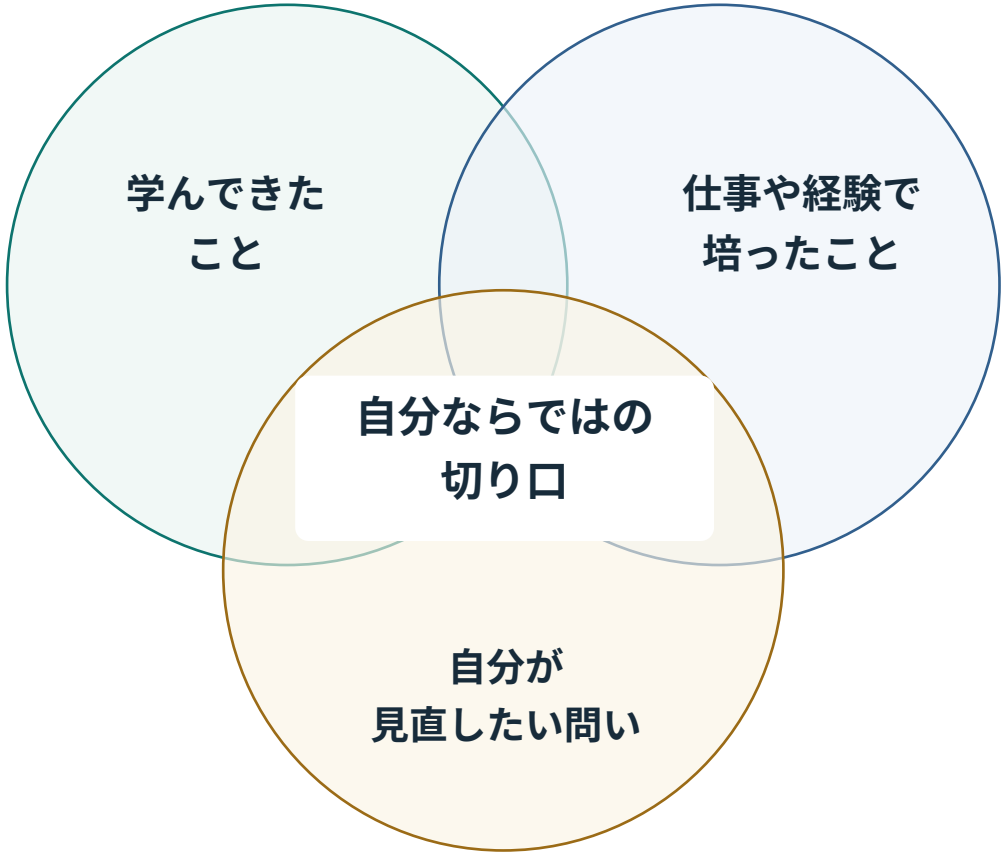
途中で止まったら 調査結果が出ても、成果物が完成したとは限りません。講義では未作成のWordファイルを確認し、形式を指定し直して続行を依頼しました。

接続や使用許可が必要な場面もあります。ここでは録画中の手順を整理しています。

録画参照 00:21:29 - 00:22:36 / 00:26:00 - 00:29:21 / 00:44:34 - 00:45:30

自分の発信の材料を見つける

知識の量だけでなく「なぜ自分から聞いてもらうのか」を考える。



自分に向ける三つの問い

1. 何を継続して学んできたか
2. どんな経験を持っているか
3. 人に何を提供できるか

研究を進めることと、成果を外へ出すことを分けて考える。発信も学びの一部です。

三つの問いは、講義の要点を自分の活動に当てはめるための整理です。

録画参照 00:34:36 - 00:39:55 / 01:25:53 - 01:26:50 / 01:33:09 - 01:33:46

異なる強みを組み合わせる

既にある材料を、理にかなう形で組み合わせて独自性を考える。

講師が説明した「対向発生」 異なる要素を組み合わせ、新しい切り口を生む発想。



講義の比喩

ショートケーキ ＋ 納豆
意外さを示す発想例

受講者の活動例を匿名化

発声の学び ＋ 言霊の学び
独自の内容を考える

両方の基礎が確か → 組み合わせを検討
両方とも曖昧 → まず材料の質を高める

比喩は商品としての成功や品質の実証例ではありません。

録画参照 00:57:23 - 01:01:10 / 01:03:08 - 01:03:32 / 01:33:43 - 01:37:00

注目の入口は根拠ある問題提起

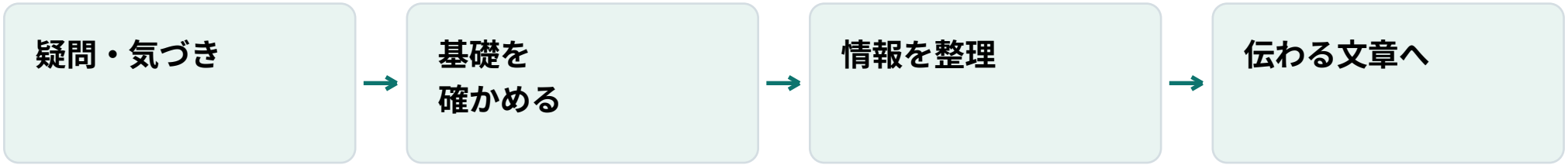
ただ目立つためではなく、相手が知りたい問いを立てる。

情報を並べるだけ

「この本にはこう書いてある」
感想だけを流す

問いを立てる

「この前提は本当にそうか」
根本に立ち返り、説明の筋道を示す



越えない線を決める

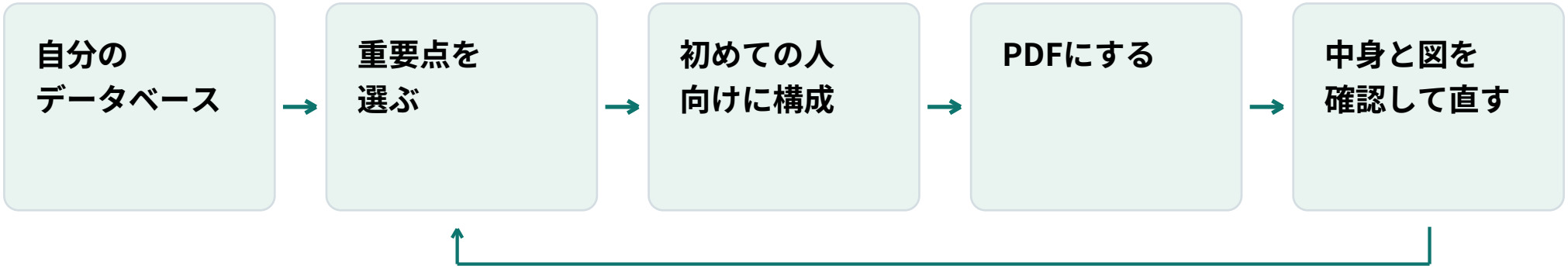
炎上を狙わない。大げさに煽らない。理にかなわない説明を本質のように見せない。

AIに丸投げせず、自分の気づきと整理した情報を記事にして蓄積します。

録画参照 00:46:22 - 00:50:07 / 00:51:46 - 00:55:38 / 02:01:52 - 02:02:50

学びを提供用PDFにする

整理済みの情報を、初めての人にも分かる形へ組み直す。



講義の指示を短く整理した例

「この整理済みの内容を、初めて学ぶ人に渡せるPDFにしてください。大事なポイントを分かりやすくまとめ、図解を入れてください。」

内容を見てから 具体的に修正する

「もっと図を多くして」 「この点を追加して」 「デザインを整えて」

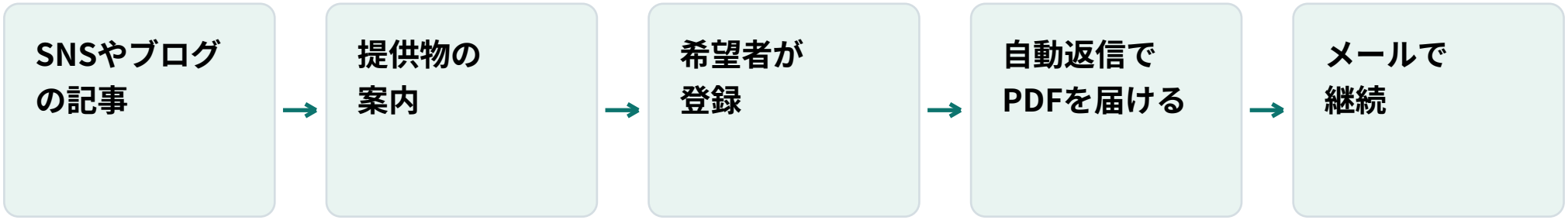
実演では、講義で扱った書籍を整理する流れに続き、入門用PDFを生成し、画面で内容を確認。

編集補足：実際に配布する素材の利用条件と配布範囲は、作成前に確かめてください。

録画参照 01:07:00 - 01:09:36 / 01:21:01 - 01:22:48 / 01:26:15 - 01:27:08

SNSから希望者との接点へ

投稿だけで終わらせず、興味を持った人の次の一歩を用意する。



SNS側の役割

知ってもらう入口。
独自の切り口を発信する。

メール側の役割

興味のある人に継続して届ける。
詳しい学びや活動を案内する。

先に役立つものを提供する

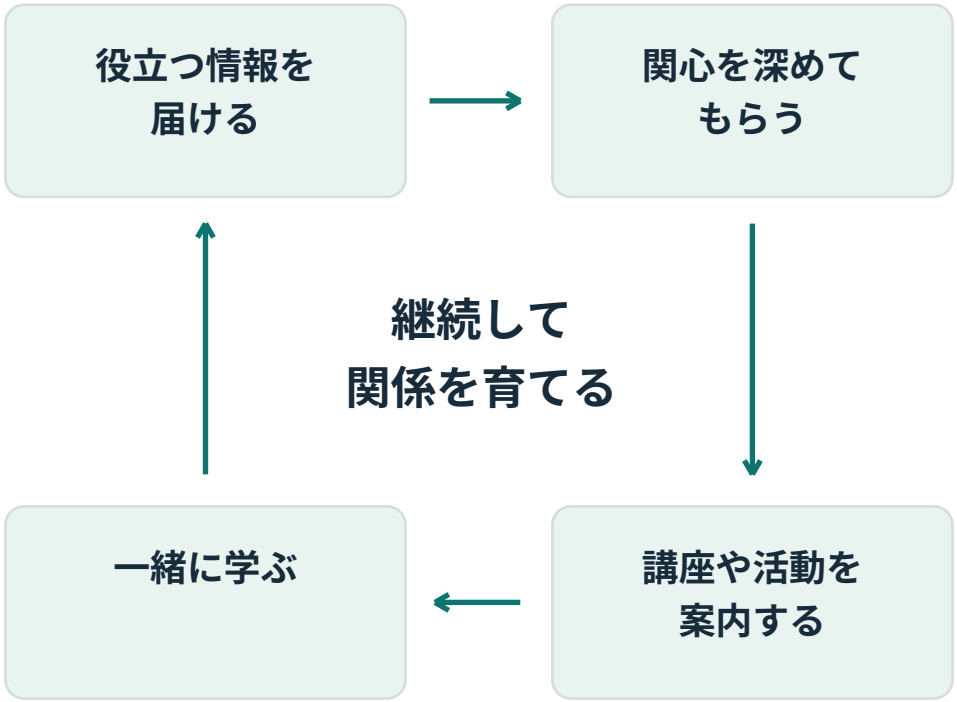
いきなり「買ってください」ではなく、受け取りたい人が登録する流れです。

編集補足：登録時に届く内容と、個人情報の扱いを明示します。

録画参照 01:03:35 - 01:06:59 / 01:09:39 - 01:11:04 / 01:22:35 - 01:23:50

顧客台帳は関係を続ける土台

一度に大人数を集めるより、つながった人と継続して学ぶ。



台帳に持たせる役割

誰とつながっているかを把握し、関心のある人へ情報を届け続ける土台にする。

メールで届ける内容

- SNS記事の詳しい解説
- 新しく整理した学び
- 講座や活動の案内

最初は少人数からでもよい。 人数だけでなく、定期的に続けられる仕組みを持ちます。

人数の増加や売上を保証するものではありません。

録画参照 01:11:03 - 01:14:15 / 01:18:02 - 01:20:51 / 01:23:14 - 01:24:24

案内から実施までをつなぐ

案内ページを作っただけでは、申込みや参加にはつながらない。

つなぐべき全体像

案内ページ LP
内容や価値を伝える

→

申込ボタン
次に進む場所を示す

→

申込フォーム
申込みを受け付ける

→

決済
支払いにつなぐ

→

Zoomなどで実施
講座などを届ける

実演から分かること

LPを先に作る

→

申込ボタン・フォーム・決済を後から接続する

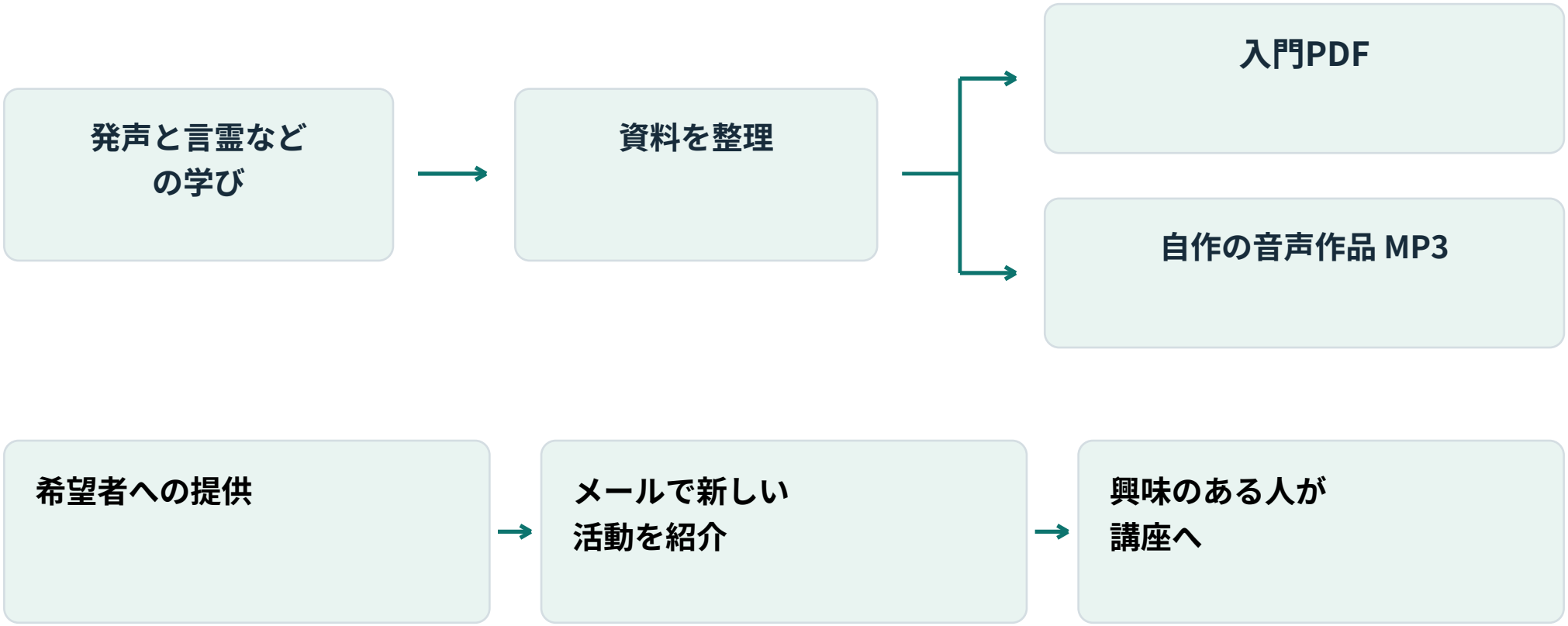
講義では、AIと相談してWordPressのLPを作り、後から接続する段取りを説明。ページの見た目と、申込みが完了できる仕組みを分けて確認します。

録画参照 01:13:28 - 01:14:51 / 01:40:58 - 01:45:29

受講者の活動に当てはめた例

作品発表を、学びの共有と継続的な活動につなげる。

講義内の応用例を匿名化

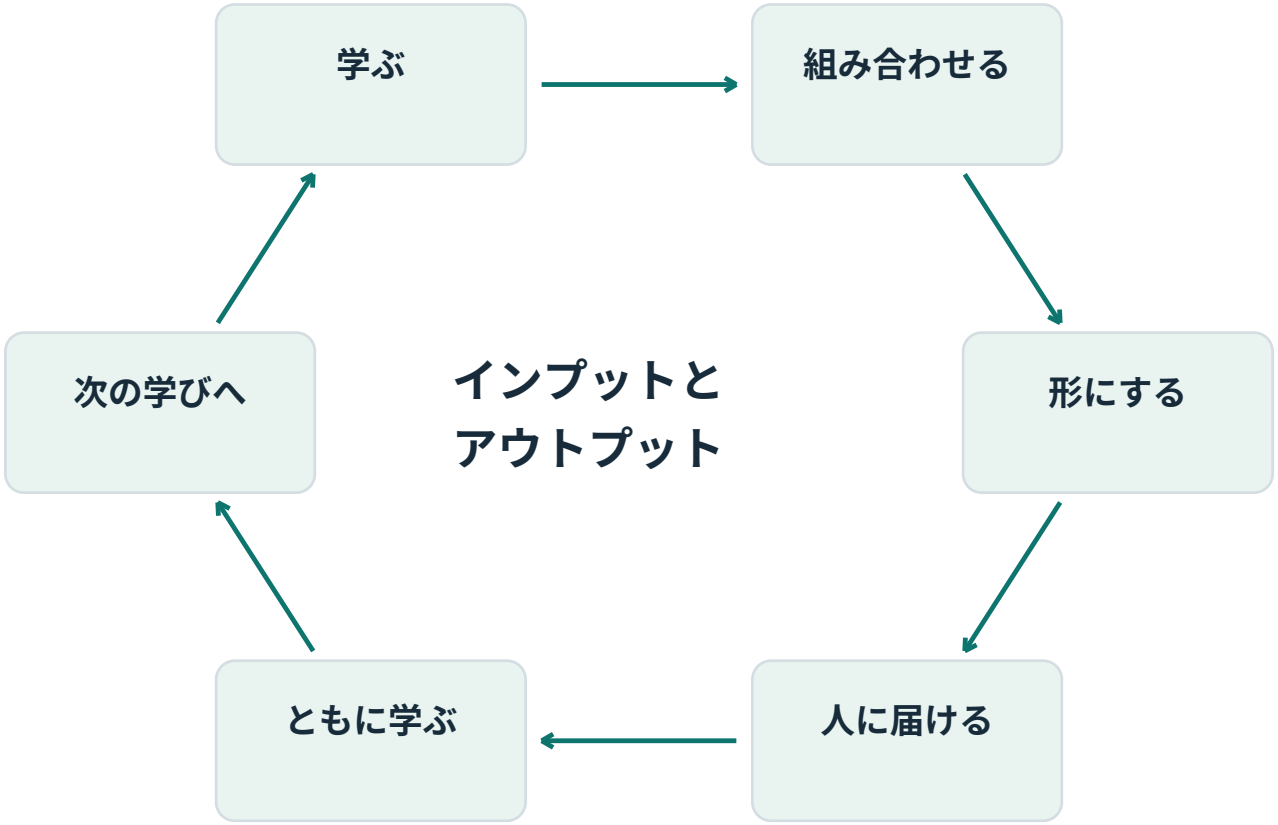


提供物はPDFに限りません。自分の活動に合う形で、何を提供できるかを考えます。

講義で提案された展開例であり、販売実績や完成済みサービスの報告ではありません。
録画参照 01:35:59 - 01:39:17

学びと実践を循環させる

一度発信して終わりにせず、伝えた経験を次の学びへ戻す。



講義の比喩

息を吸って吐くように、
学んだら出し、
出したらまた学ぶ。

講師の捉え方

想像から形へ、結びから成長へ。この流れを、カタカムナの構造の実践として説明しました。

カタカムナとの対応づけは講師の説明です。科学的効果や成果の保証を示す図ではありません。

録画参照 01:15:28 - 01:17:57 / 01:30:46 - 01:31:54 / 01:48:21 - 01:49:25

人が決めることとAIの補助

「何を届けたいか」を明確にして、形にする作業をAIと進める。

人が担う軸

- 提供したい価値
- 独自の問い
- 材料の質
- 出来上がった内容の確認

AIと進める作業

- 資料の解析と整理
- 文章の下書き
- PDFやページの制作
- 接続サービスでの作業

自分の意図 → **AIと対話** → **成果物を確認** → **修正して使う**

自分の思い込みだけにAIを寄せず、資料を渡して客観的な分析を求めます。
依頼したことと、実行・完成を確認できたことは分けて扱います。

録画参照 00:08:21 - 00:09:34 / 00:31:30 - 00:32:15 / 00:55:04 - 00:55:38 / 01:43:49 - 01:44:15

自分の提供物を決める復習ワーク

まず一つのテーマを選び、自分の活動に当てはめて書いてみましょう。

1 学んできたこと・経験

2 組み合わせたい異なる強み

3 届けたい相手と、その人の問い

4 最初に提供するもの

PDF ／ 記事 ／ 音声 ／ その他

5 最初の一歩

解析する資料1つ または まとめるテーマ1つ

組み合わせを確かめる

珍しいだけでなく、
基礎と内容の質がある組み合わせか。

講義の考え方を整理した復習用ワークです。録画内で実施された課題の転載ではありません。

録画参照 00:57:23 - 01:01:10 / 01:25:53 - 01:26:50 / 01:33:43 - 01:35:43

自分の仕組みを描く復習ワーク

足りない接続を見つけ、必要な部分から一つずつ形にする。

1 発信する場所

☐ できている ☐ これから

→

2 最初の提供物

☐ できている ☐ これから

→

3 登録と受渡し

☐ できている ☐ これから

↓

4 継続して届ける内容

☐ できている ☐ これから

←

5 案内と申込み

☐ できている ☐ これから

←

6 講座や活動

☐ できている ☐ これから

- ☐ 原資料と整理した内容を残した
- ☐ PDFや記事を自分で読んだ
- ☐ 登録後に何が届くかを明確にした
- ☐ 案内から申込みまでの接続を確かめた
- ☐ 次の発信や活動を考えた

講義の流れを再構成した点検用ワークです。すべてを一度に作る必要はありません。

録画参照 01:09:39 - 01:14:51 / 01:29:20 - 01:31:08 / 01:44:10 - 01:47:04

学びを相手に役立つ提供物にする

学ぶ → 整理する → 形にする → 提供する → ともに育つ

提供者としての姿勢

- 先に提供できる価値を考える。
- 注目のために煽らず、理にかなう内容を届ける。
- 対価を得る場合も、それに見合う以上の価値を提供する姿勢を持つ。

出典 2026年10月28日 天聞AI実践特別講座
録画 2時間05分20秒

録画を開く Vimeo

https://vimeo.com/1237893097/8e1d354437

録画を見返す

00:08:03 AIと資料整理の入口
00:18:34 ページ単位の解析実演
00:34:36 学びから発信への転換
00:57:23 異なる要素を組み合わせる
01:07:00 提供用PDFの制作
01:09:59 登録とメールの導線
01:40:58 LPと申込みの仕組み
01:56:36 提供者としての姿勢

自動字幕をもとに要点を整理した図解です。時刻は録画内の位置。操作画面や利用条件は講義時点の内容です。

録画参照 01:56:36 - 02:03:25